

“ピロリ菌のおはなし”

「ピロリ菌」ってよく聞きますが、どんなものでしょうか。

ピロリ菌は主に胃の中に住んでおり、胃炎・胃潰瘍・十二指腸潰瘍、さらには胃がんの原因となっているといわれています。

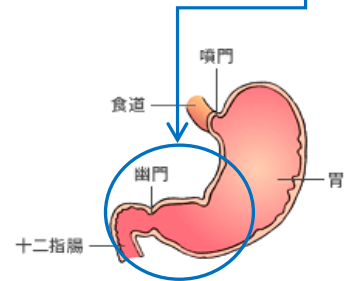
オーストラリアのウォーレンとマーシャルにより分離・培養され、マーシャルはこの菌を自ら飲み込むことで胃炎を起こすことを証明しました。(ふたりは2005年ノーベル賞を受賞)

ピロリ菌の正式名は、ヘリコバクタ・ピロリといい、ヘリコは、らせん・旋回（ヘリコプターのヘリコと同じ）、バクタは、バクテリア（細菌）、ピロリは胃の出口（幽門）をさす「pylorus」から来ており、この菌が胃の幽門部から多く見つかることに由来しています。



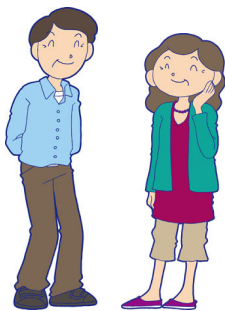
ピロリ菌

この辺に多くいる

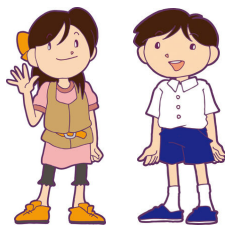


では胃の中は強い酸性なのに、なぜピロリ菌は生きられるのでしょうか？

それはピロリ菌がウレアーゼという酵素によって尿素という物質からアンモニアを作り、アルカリ性であるアンモニアにより胃酸を中和しているからです。



(70~80%が感染)



(感染率は低い)

ピロリ菌の感染率は衛生状態に影響され、50歳以上の日本人の70~80%が感染しているといわれ、口からの感染が主な経路と考えられています。

1週間の服薬で80~90%の人が菌を取り除くことが可能です、また一度菌がいなくなればほとんど潰瘍の再発はなくなります。

ずっと胃の調子が悪い方は、一度専門医に相談してみてもはいかがでしょうか。